

学術事業報告

学発番号：学13-065

研修会名：病理分野講演会

日時：平成26年2月15日(土)14:00～17:00

場所：京都府立医科大学 基礎医学学舎 第1講義室

主題1：病理検査精度管理報告及び解説

講師1：奥田 崇(京都府立医科大学 病理学教室)

主題2：細胞診検査精度管理報告及び解説

講師2：谷村 満知子((株)ジェ・シ・アル)

主題3：膵臓の細胞診 ー膵液とEUS-FNA・来年度精度管理調査にむけてー

講師3：白波瀬 浩幸(京都大学医学部附属病院 病理部)

主題4：病理技師としての検査相談、説明 ～医療講演会、がん患者相談の経験か

講師4：江口 光徳(宇治徳洲会病院)

参加数：21名(うち京臨技のみ3名)

報告者： 江口 光徳(宇治徳洲会病院)

以下、講演内容など

今回の講演会は前半に平成25年度の精度管理報告及び解説を、病理分野と細胞診分野のそれぞれの精度管理委員より報告していただきました。病理分野では昨年に引き続きアミロイド染色について行いました。アミロイド染色はいくつかの方法があり、今回推奨法としてDFS染色を示し、各施設採用している方法と推奨法の両方を提出していただきました。全体的に見ると推奨法のほうが施設間差も少なく、良い染色性を示していました。細胞診部門では10問の評価問題で参加施設は全体ではほぼ目的とする正解率でした。評価対象外の教育的設問では3問出題しましたが、概ね正解の回答を選ばれていました。

後半では京都大学医学部附属病院の白波瀬技師より、来年度の精度管理に向けて膵臓の細胞診について講演していただきました。膵臓の細胞診における所見のポイントや鑑別点など分かりやすく講演いただき、参考になりました。

最後に宇治徳洲会病院 江口より、一般の方向けの講演会や、がん患者さんへの相談等現在行っている取り組みを報告いたしました。患者さんや一般の方とお話をするときは難しい医療用語を使えなかったり、あまり踏み込んだ回答ができなかったり難しいこともあります。病理関係の技師は直接患者さんや一般の方と話をする機会は少なく、このような機会があると私たち技師も勉強になるため、よい取り組みではないかと思いを報告いたしました。

全体的に非常に勉強になる良い講演会であり、今後の業務にも活かしていこうと思います。